

中	64
---	----

研究主題 「一人一人を大切にし、信頼関係に立つ教育の推進」に関する本校の実践

学校名 久喜市立栗橋東中学校

1 教師と児童生徒の信頼関係を築くために、あるいは、いじめ・暴力行為・不登校等の生徒指導上の課題を解決するために、小中連携（小中一貫）をとおして具体的にどのような取り組みをしているか。

1 はじめに

本校は、生徒数 487 名、3 学年・特別支援学級 2 学級を合わせて、17 学級の中規模校で久喜市の北東部に位置する。昔の宿場町としても栄えた栗橋地区と、新興住宅地域がほとんどの南栗橋地区との生徒が半々の割合で通学してる。本校の生徒は大多数が落ち着いて学校生活を送り、授業や行事などにも積極的に取り組むことができている。しかし、周囲の目をととても気にするところがあり、他の人と同じと言うことで安心感を覚えてるようである。良いところも悪いところも同様に、集団化しやすい傾向が見受けられる。自己を高め、周囲への気配りができるが、今何をすべきかの判断・行動する力が育っていない。生徒指導の機能を生かし、自己指導能力を育成することが課題である。

2 課題解決に向けての具体的な取り組み

（1）小中連携協議会の実施

現在、久喜市栗橋地区の小・中学校 5 校で校長会を中心に小中連携協議会を進めている。今後、部活動とクラブ活動の連携や朝の挨拶運動、地域の行事への共同参加等を検討していく予定である。

（2）今後、小中連携していきたい取り組みとして

ア 登下校のあいさつ運動の継続（小中連携として今後していきたい取り組み）

本校は、「あいさつ日本一の学校」を目標に掲げている。朝の 7:50～8:10、下校時刻の 15 分間をあいさつ運動の時間として、各校門や昇降口で校長を先頭に多くの教職員で実践している。あいさつ運動を通して生徒の表情や服装などの変化に気づき、適宜アドバイスしたり、指導する機会としている。また、生徒会や委員会企画であいさつ運動も展開され、生徒同士があいさつへの意識を高める機会としている。

そして、これからは登校時に小学校区で生徒会や委員会等の生徒で「朝のあいさつ運動」を計画・実施していきたいと考えている。

イ 生徒の実態を踏まえた、授業の充実と授業形態の工夫（小中連携を見据えて）

学校生活の中心は、授業である。本校でも、生徒主体で課題解決的な授業の実践や、少人数、TTなど、指導法の工夫を多くの教科で行い、自己存在感・共感的人間関係・自己決定の場を作るよう意識して行っている。昨年度は入学説明会で中学校職員が入学予定者に体験授業のを実施した。更に今後は、小学校へ出前授業なども計画していきたいと考えている。これらの活動を通して中学への壁をなくし安心して入学できるような雰囲気を作っていきたい。

ウ 「生活についてアンケート」の活用と教育相談の実施

入学前に小学校との情報交換。入学後、各学期に2度「生活についてのアンケート」を実施し、悩みやいじめなどの諸問題の早期発見、早期指導につなげている。

エ 教職員の研修の充実

年度当初に、教職員が共通理解・共通行動がとれるように、会議で確認を行っている。具体的な教育活動の場面で考えられるよう一日の学校生活の流れに沿って、ポイントの確認を行った。夏季休業中に生徒指導研修会を設け、生徒指導に関する課題の再確認や、事例研修会を行っている。また、校内研修等で小学校の授業を参観、中学校の授業を参観する機会を設け、9年間を見据えた指導や支援、情報交換等の機会としたい。

（３）地域及び関係諸期間との連携

ア PTA との協力

PTA や学警連と連携し、夏休み前後や地域でのお祭りなどの巡回を行っている。地域の方々に参加して頂き、生徒への抑止力となって効果を発揮してきている。保護者の方々も、非行防止は地域での取り組みといての意識も芽生えてきている。そして、小学校の父母との巡視も計画していきたい。

イ 地域との協力

地域の民生委員さんとの会合や学校評議員会を開催し、情報交換や地域での生徒の様子を話し合っている。学校側の対応の仕方など説明を行い、理解・協力をお願いしている。

ウ 警察との協力

定期的に、幸手警察署に行き、周辺の状況や生徒の様子などの情報交換を行っている。

3 終わりに

上記の通り、一人一人を大切にし、信頼関係に立つ教育の推進を、本校の実態を踏まえながら、実践をすすめている。しかし、まだまだ足りない部分も多く残っている現状がある。小学校、地域の方や関係諸機関との連携を進めると共に、今後も校長、教頭の指導の下、各分掌や地域との連携を図っていきたい。